

まえがき

2007年3月25日9時42分頃、能登半島西岸沖を震源とするマグニチュード（M）6.9（暫定値）の地震が発生した¹⁾。本地震による最大震度は、石川県輪島市ほかで観測された震度6強である。気象庁は3月26日にこの地震を「平成19年（2007年）能登半島地震」と命名した。気象庁による地震の命名は、2004年10月23日に発生した新潟県中越地震以来である。11月28日現在、最大震度5弱を観測した余震が3月25日18時11分頃（M5.3）、3月26日14時46分頃（M4.8）及び3月28日8時8分頃（M4.9）の3回発生している。また、消防庁の取りまとめによると、11月28日18時30分現在、地震による死者は灯籠の下敷きになった1名、負傷者は356名、住家被害は、全壊684棟、半壊1,731棟、一部破損26,914棟に上っている²⁾。

能登半島は、従来、地震の少ない地域とされていたが、今回の地震により能登半島地域を中心に、建物や土木施設にも多くの被害が生じた。地震後、国土技術政策総合研究所、土木研究所、建築研究所及び港湾空港技術研究所では連携して、関係する分野ごとに調査チームを編成の上、3月25日から5月28日までの間に延べ97名の職員を順次派遣し、現地における技術支援、調査等に当たった。

本資料は、地震直後の現地調査結果、また、その後実施された調査・研究結果を現時点で取りまとめ、今後の更なる調査研究に活用できるようにするとともに、収集した調査資料の保存を図ることを目的としたものである。したがって、現在、継続中の研究成果の公表については、別の機会に譲ることにしたい。

参考文献

1) 気象庁ホームページ：

http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/2007_03_25_noto/index.html

2) 消防庁ホームページ：

<http://www.fdma.go.jp/detail/710.html>